



こんにちは、原子力機構です。

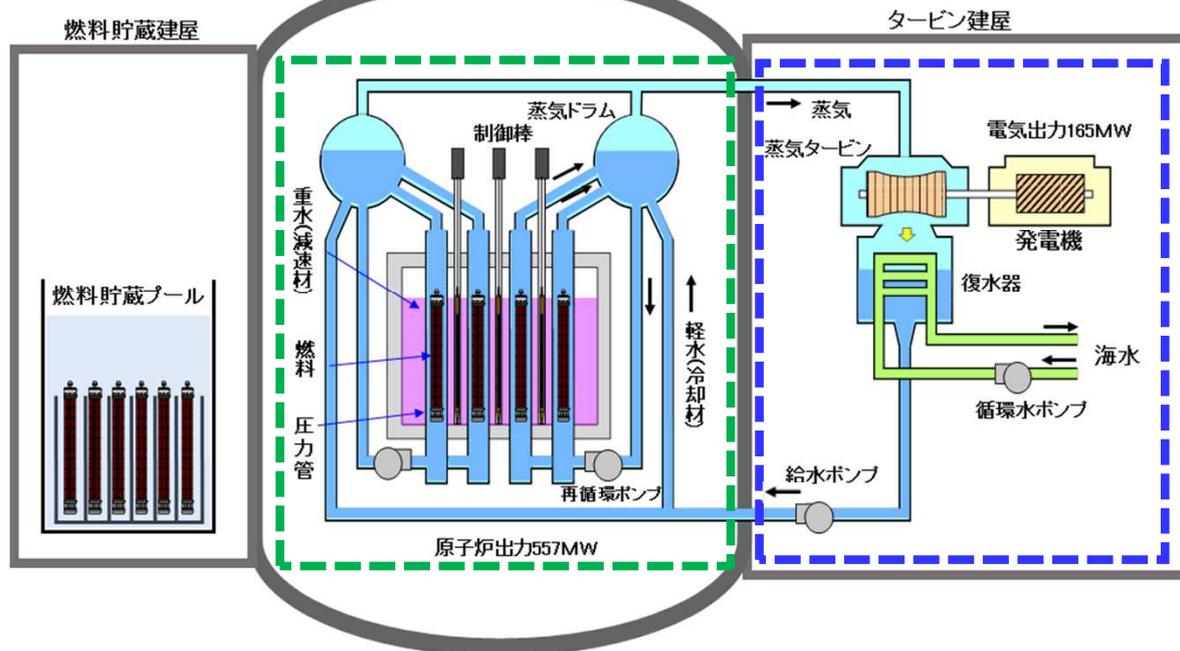
～「ふげん」廃止措置の状況～

2021年2月作成

2003年3月に約25年間の運転を終了した後、2008年2月に廃止措置計画の認可を受け、2033年度終了の予定で廃止措置を進めています。

現在、「原子炉周辺設備解体撤去期間」であり、タービン設備や原子炉周辺設備の機器等の解体撤去を実施しています。

原子炉格納容器



タービン設備の解体撤去

- ・2008～2017年度
復水器や給水加熱器、湿水分離器等を解体撤去。
- ・2019～2020年度
原子炉給水ポンプ等（遮へい壁貫通工事含む）の解体撤去
給水ポンプ廻りの配管等を解体撤去中（2020年8月～）



給水管の解体作業

原子炉周辺設備の解体撤去

- ・2017～2018年度
主蒸気隔離弁及び隔離冷却系配管、空気再循環系等を解体撤去。
- ・2019～2020年度
Aループ側の一次冷却設備等を対象とした本格的な解体撤去を
継続中（2020年2月～）。
原子炉冷却系配管や工安系配管等を解体撤去中。
Bループ側の設備等は、2020年度末に解体撤去着手予定。



原子炉冷却系の解体作業

解体撤去物のクリアランス測定作業



金属再生



原子力施設で発生する解体撤去物のうち、自然放射線と比べて極めて放射性濃度が低い解体金属等は、事業者が詳細な測定を実施し、国の確認を受けた後、普通の産業廃棄物と同じように再利用や処分をすることが可能になります。「ふげん」では、2018年12月からクリアランス対象物約1,100トンの測定を開始しました。2018年度測定済の約49トン及び2019年度から2020年5月末までの測定済約126トンについては、国の確認証を受領し、現在、敷地内で保管中です。その後、2020年10月末までに測定済の約132トンについて、2021年1月に国へ確認申請を行ったところです。